

いよいよ令和4年度も大詰めを迎え、明日は第76回卒業証書授与式が挙行されます。先ほどの学年代表の皆さんの立派な発表と同じように、我が西中も1学期より2学期、2学期より3学期と、月日を重ねるたびに成長していると感じます。

教頭先生発行の先月の学校だよりで、次のような私の言葉を紹介してもらいました。

「西中生徒会では、選ばれた役員がしっかりとリーダーシップを発揮し、会員がしっかりとサポートしている。制限ある中での創意工夫や柔軟な対応のおかげで、全体としての校内生活は安定している。生徒たちは着実に成長している。

しかし、個別では、様々な悩みや困難に直面している。そこで、苦しかったり困ったりするときは、相談し吐き出すことで、悩みをためないこと。そして、このような場面に遭遇したときの対処法や切り抜け方を見つけ、失敗はチャレンジした証とし、これからの人生の糧にして乗り越えていけるよう助言している。

生徒も職員も成長過程の最中にいるので、これからもご理解いただき、ご支援くださるようお願いしたい。」

あっという間の3学期でしたが、3年生は既に進路決定をした人もいたり、明後日の後期選抜入学予定者発表を待つ人やこれから試験を受けたりする人もいます。合格発表時の職員室で、先生方が歓喜する姿を想像しながら、15の春が幸多かれと祈るとともに、飯田西中学校から本当に巣立っていくのだと実感します。

2年生は新生徒会を引き継いで、立派に成長しています。委員会の運営だったり3年生を送る会を成功に導いたりする姿、楽しんで仕事をする姿を見て、令和5年度も期待をもって任せられる思いがします。1年生もまた上級生になるべく、凛々しい顔つきになってきました。制服姿も板につき、外見や体つき同様、内面でも中学生らしさというか、相応しさが備わってきたように感じます。

4月からは新たなステージです。ステップアップする西中生でいてください。

ところで、皆さんは「言霊」という言葉を知っているでしょうか。

国語辞典によると「古代日本で、言葉に宿っていると信じられていた不思議な力。また言葉に宿る霊の意。」とあります。日本では太古より「言葉には神秘的な力がある」と考えられています。

世界でも「発した言葉が本当になる」とか、「良い意味をもつ言葉を発すれば幸せにな

り、悪い意味をもつ言葉を発すれば不幸になる」と言われ、言葉には大きな力があると考えられていて、「よりポジティブな言葉を使うと良い」とされています。

具体的には、「でも・だって・どうせ」とか、「私には無理、できない」と自らを否定したり諦めてしまったりすることや、「失敗するかも」と悪い方向へ結果を決めつけてしまうようなネガティブな言葉は、自身の可能性の幅を狭めてしまいます。

しかし、「私ならできる」といったポジティブな言葉には、心に良い影響を与えて潜在する力を引き出すことができるので、結果的に願いが叶ったり、目標に届きやすくなったりすると考えられています。

このことから、自らの「言葉の力」によって、引き出せる能力と、もたらされる結果に大きな差が生まれるということが分かります。加えて、周囲からの肯定の Yes and や PEPTALK などの「すごい・さすが・素晴らしい」といった言葉がけがあれば、相乗効果を生むのではないかと思います。

先月の校長講話で、「辛い」の頭に横一本線を引けば「幸せ」になる。この横一本線はマザー・テレサさんが言う「思考」のことかもしれない。と話をしました。

マザー・テレサさんはこう諭しました。

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

併せて、松井秀喜さんの座右の銘も、今一度思い出してください。

心が変われば、行動が変わる。 行動が変われば、習慣が変わる。

習慣が変われば、人格が変わる。 人格が変われば、運命が変わる。

そういえば、このような言葉も皆さんに伝えました。3つを振り返ります。

中国、春秋時代の管仲の言葉です。齊という国の宰相だった人です。

ある人に魚を一匹与えれば、その人は一食を得る。

魚の捕り方を教えれば、その人は生涯食える。

これは指導者に対する言葉ですが、皆さんの学習の仕方として捉えてみると、答えの丸写しをして、勉強した気になったとすれば、これは将来役立つ力にはなりません。と言

い換えることができます。

二つ目、昭和の時代、オリンピック3大会連続出場、マラソンランナーの君原健二さんの言葉です。君原さんは、小学校ではスポーツも勉強も何一つ目立たなかった子どもだったそうですが、中学校で誘われて陸上部に入り、走り始めてから人生が変わったと振り返っています。子どものときに抱いていたコンプレックスをバネに、向上心を燃やし練習に取り組んだ結果、運動会では1等賞になったことがなかった少年が、成人になりメダリストになったのです。

努力の成果なんて目には見えない。

しかし、紙一重の薄さも重なれば本の厚さになる。

目標が遠く感じるときや、結果が出ないと焦っているときに思い出したい言葉ですが、私は、生徒会の引継ぎのときとか、学習で使用した分厚いファイルを見るたびに、この言葉を思い出すのです。

三つ目が、進化論で有名なチャールズ・ダーウィンが言ったとされる言葉です。先月の日報「原先生の日記」の中でも紹介されていました。

最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。

唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。

新型コロナウイルスの出現により、今までの当たり前が見直されたり、AIの台頭により、第4次産業革命に入ったと言われたりします。自らが最適解を見つけ、先行き不透明な時代を生き抜くためには、変化やアップデートが必要であると私は思っています。

結びに、皆さんにもきっと、自分を励ましてくれたり救ってくれたり、奮い立たせてくれる言葉や音楽などがあると思います。ときには弱音をこぼせる仲間、ライバルになったり安心感を与えてくれたりする仲間がいて、友情を育んでいると思います。

皆さんの人生は始まったばかりです。多様な見方考え方に触れ、自分の人生に生きる言葉、良いワードやフレーズに出会い、吸収し、探究心をも備えた器の大きな大人になってほしいと伝え、話を終わりにします。